

ウェイフロア・和織床タイルの特性

ウェイフロア・和織床タイルは、PVCをポリエステル芯に溶着した特別な経糸と緯糸で織り合わせた純粋な織物ビニル床タイルです。ウェイフロアには標準タイプ・置敷きタイプ・ロールタイプの3タイプがあり、ピールアップによる施工が可能なタイプもあります。施工方法はビニル床タイルとほぼ同じですが、織物の構造上ワックスメンテナンスができないなど、メンテナンス方法がビニル床タイルと大きく異なります。

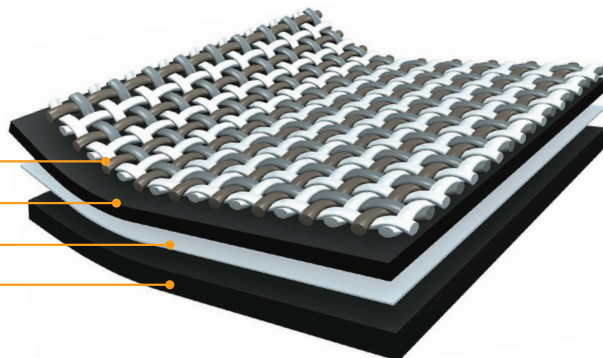
商品構造：織物ビニル床タイル
PVC94%、ポリエステル5%、グラスファイバー1%

織物ビニル

PVC

グラスファイバー

PVC



施工上のご注意

■材料の確認

①材料について

梱包ケースに記載の品名、規格、色番号、ロット番号、数量などを確認し、施工を開始してください。品番・ロットによって寸法や色柄が若干のばらつきがあります。施工の際はご注意ください。またタイル裏面の矢印で流れ方向をご確認ください。方向が変わると色相差のように見えることがあります。

②現場環境に慣らす

必ず24時間以上前に搬入し、施工環境温度に慣らしてください。

③適切な保管場所

製品を保管する際は、湿度の少ない平坦な場所で平置きし、6段以上積まないでください。不陸のある床の上に保管すると歪みや癖が発生し、納まりが悪くなります。直射日光のあたる場所での保管は避けてください。

③清掃

下地に汚れ等があると十分な接着強度が得られないため、汚れを取り除いてください。ワックスが付いている場合は除去してください。

④下地調整

下地に段差等がある場合は平滑にしてください。また下地の影響等で製品が浮いてしまうような場合は、接着剤が硬化するまで重しを置いてください。

⑤接着剤

接着剤にて施工する場合、条件、環境等により使い分けしてください。接着剤は各使用方法に基づきご使用ください。なお接着剤を使用する際は、換気を十分に行ってください。

■施工現場の確認

①温度調整

織物ビニルフロアは、施工時の温度に影響を受けやすく、室温と床材に温度差があると、施工直後だけでなく、後日、目地隙、突き上げなどを起こすことがあります。低温時は特に接着剤の接着力が弱くなります。現場環境は室温15℃～25℃、湿度75%以下が望ましく、温度が低い場合はジェットヒーターなどの暖房器具で現場を暖めるようにしてください。5℃以下では接着剤の反応が悪くなるため、施工をしないでください。施工の前12～24時間は室温15℃～25℃、湿度75%以下を保つことが好ましく、直射日光・水洗い・重量物の走行等も避けてください。

②明るさの確保

現場が暗い場合は、照明器具を用いて十分な明るさを保ってください。

■施工後の自主点検

接着剤での施工製品は接着剤が硬化する前に補修することが重要です。特にウレタン樹脂系接着剤等の接着力の強い施工の場合は、目違い、目地隙等や貼り間違い等が発生すると、硬化後での補修は床材をめくると自体が大変な作業となり、下地まで傷めてしまうことがあります。早期の点検と補修で不具合を防ぐことが重要です。

■養生

養生シートを留める際、粘着テープは直接床材に貼付けしないでください。床材を汚染する原因となります。施工直後に養生シートを使用した場合織物ビニルフロアと養生シートの間に結露水や水蒸気・接着蒸気などがこもり織物ビニルフロアの反り、突き上げなどが生じる場合があるため、養生シートは通気性のあるものを使用してください。

その他

- ・施工する床材、エリアに最も適した接着剤を使用してください。
- ・接着剤の塗布量やオープンタイムは、接着剤の種類や下地により異なりますので、接着剤の使用上の注意をよく確認してください。
- ・誤った方法で使用すると、接着不良による突き上げや目地隙が発生する恐れがあります。
- ・施工する床材、施工するエリアに最も適した接着剤を使用してください。
- ・二重床へは、置敷きタイプの製品を使用してください。 ※一部使用できない商品があります。
- ・アンダーレイ等のクッション性のある下地へは使わないでください。
- ・取り替えの際は、製品ロットの違い、日焼け等により色・サイズが合わない場合がありますのでご了承願います。
- ・製品の特性上、白い芯系が出る場合がありますが引き抜かずにはさみ等でカットしてください。
- ・スパイク等が付いた靴を使用する場合は、一般の土足歩行とは異なります。傷や汚れが付きやすく、硬質系床材では滑り等にもご注意ください。

■指定接着剤

ウェイフロア：ルピロン101、ルピロンエース、RFボンド、ルピロンエコプラス、CP-7L
和織床タイル：ルピロン101、ルピロンエース ▶P.281-282 参照

※ 当社の指定接着剤は、JIS規格による接着基準を満たしていますので、必ずご使用ください。
※ 接着剤は、直射日光のあたらない場所(5℃～35℃)で保管してください。

	標準タイプ	置敷きタイプ	ロールタイプ
ルピロン101 ルピロンエース	○	○	○
ルピロンエコプラス	○	○	○
RFボンド	○	○	○
CP-7L	×	○	×

■基本的な施工の流れ



※各項目はビニル床タイルと共通であり、かつ完全接着施工が基本となります。

■基本的な施工方法

01 割付け

施工エリアのサイズを測り、貼り始めの位置を決めます。原則的に、施工エリアの中心部より左右の端に極端な細い物が入らないように割付けし墨出しをしてください。仮並べをして確認することをおすすめします。

02 接着剤の塗布

現場の状況に合わせ、指定接着剤の中から最適な接着剤をご使用ください。

なおRFボンドは分離を避けるため、缶を開ける前によく振ってください。 **POINT**

接着剤のラベルの使用方法に基づき施工してください。

接着剤は施工環境に合わせ、標準塗布量、オープンタイム、および貼付け可能時間を守ることが重要です。墨出し線から半分ずつ塗布してください。付属のクシ目ゴテを使用し、接着剤がクシ目状になるようクシ目を立てて塗布してください。

品名	ルピロン101	ルピロンエース	ルピロンエコプラス	RFボンド	CP-7L
種類	ウレタン樹脂系溶剤形	ウレタン樹脂系溶剤形	アクリル樹脂系エマルジョン形	変成シリコン樹脂系	アクリル樹脂系エマルジョン形
工法	一般工法・耐湿工法	一般工法・耐湿工法	一般工法	一般工法・耐湿工法	ピールアップ工法
下地	モルタル	モルタル	モルタル	モルタル・コンクリート・木質フローリング・クッションフロア	モルタル・コンクリート・金属系下地・二重床
標準塗布量 (g/m ²)	モルタル下地：約 350	モルタル下地：約 350	モルタル下地：約 300 ~ 350	モルタル下地：約 350 ~ 400	モルタル下地：約 150 ~ 200 二重床：約 120 ~ 180
オープンタイム (23°Cの場合)	15分	10分	15 ~ 25分	10 ~ 60分	10 ~ 20分
貼付け可能時間 (23°Cの場合)	40 ~ 45分	30 ~ 35分	50 ~ 70分	30 ~ 90分	約 40分
適用	標準タイプ	○	○	○	×
	置きタイプ	○	○	○	○
	ローラータイプ	○	○	○	×

※施工する床材に最も適した接着剤をご使用ください。現場にて納まりが悪い場合は、接着剤の変更も必要となります。
 ※貼付けのタイミング(オープンタイム)は、接着剤の種類や下地により異なりますので、接着剤の使用上の注意をよく確認してください。
 ※誤った方法で使用すると、接着不良による突き上げや目隙が発生する場合があります。
 ※各接着剤に記載している使用方法および使用上のご注意をご確認ください。

03 貼付け

柄を同一方向に合わせながら、墨出し線を基準に、壁に向かって貼り始めます。タイルをカットするときは垂直に2～3回切り込みを入れ、最後に折り曲げてからカットすることをおすすめします。

・広い部屋では、目地ずれが発生することがあります。そのときは、ずれが大きくならないうちに、1枚先の最も短いタイルの目地に合わせて貼り固めてから、カンナなどでタイルの大きさを調整し、はめこみます(殺し貼り)。

04 切り込み

端部でカットがある場合は、切り込みタイルを1枚手前のタイルの上に正確に置き、定規として使う別のタイルを壁面に沿わせて、切り込みタイルの上に重ねてから、その端をカットしていきます。なお、カット面で白い芯糸が出る場合がありますが引く張らずに、はさみ等でカットしてください。

※カットの際は、下のタイルまで切らないようご注意ください。※カッターナイフをご使用の際は十分にご確認ください。

05 圧着

POINT

貼付け後は必ず上から床材用圧着ローラーで圧着してください。圧着が不十分の場合は接着不良が起こったり、タイルの表面にクシ目跡が出る場合があります。

※置きタイプはピールアップ施工が可能です。(一部不可の商品があります) ピールアップ工法では、特に以下の項目が重要です。

06 施工後の点検

施工後、目違いや目地隙、汚れなどが無いかを確認し、必要に応じて補修をします。

07 養生

接着剤が完全に硬化するまでは極端な負荷や温度変化を避け、養生シートなどで床面を保護してください。

ピールアップ工法のご注意

- 下地** ・下地が強く凹凸が無く平滑であることを必ず確認してください。素材の特性上、段差では捲れが発生します。
 ・特にOAフロア面上では、パネルの継ぎ目は目地がこないようにしてください。また少なくとも全体の約3分の1以上が、下地パネルの継ぎ目をまたぐように施工してください。
 ・コンクリートスラブや木質下地などへの施工については、下地が強く平滑であれば施工が可能です。特に木質下地の場合、下地の継ぎ目処理の状態をよく確認して、段差の無い状態で施工してください。
- 接着剤** ・接着剤の塗布量は、モルタル下地は約150～200g/m²、二重床は約120～180g/m²を目途に、クシ目ゴテで塗布するか、ローラーで塗布する場合は2度塗りする等の処置をして塗布してください。塗布量が少ない場合、後日、タイルの反り・突き上げ・剥がれ等が生じる場合があります。
 ・接着剤は下地全体にムラなく塗布してください(OAフロアパネル面を含む)。
 ※OAフロア上へ接着剤を塗布する際は、パネルの端部を避けて縦横十字に塗布するのが一般的ですが、ウェイフロアでは手掛かり部分やボルト部分も含め、パネル全体に均一に塗布してください。
 ・置きタイプはピールアップ接着剤の使用が可能です。施工場所や施工環境により接着強度が求められる場合は、ウレタン樹脂系接着剤などによる完全接着施工をおすすめします。
- 圧着** ・施工後の圧着は必ず行ってください。圧着が不十分の場合、後日、タイルの反り・突き上げ・剥がれ等が生じる場合があります。

■メンテナンス

適切な方法で製品をメンテナンスし、維持することによって製品の寿命を延ばすことができます。汚れの80%は外からの持ち込みといわれていますので、ダストコントロールマットの設置をおすすめします。汚れ防止に効果的です。床の上に鋭利なものを置かないでください。傷が付く場合があります。

施工後のワックスがけはしないでください。ワックスが表面に詰まり、風合いを損なうなど不具合を誘発するおそれがあります。

日常のメンテナンス

日常清掃は、掃除機によるバキュームまたはモップでの拭き掃除を行ってください。

- ・モップがけを行う場合は、必ず固く絞ったモップを使用してください。なお水分で濡れた場合は、速やかに拭き取ってください。
- ・製品の特性上、白い芯糸が出る場合がありますが、引き抜かずにはさみ等でカットしてください。

メンテナンス上のご注意

- ・表生地は凹凸があるため、織り目の中に汚れが入ると取れにくい場合がありますので、汚れたら直ぐに対処してください。
- ・ポリッシャー等で水洗いする場合は、ぬるま湯または中性洗剤 (pH7-8.5) を使用してください。洗剤を使用した場合は、洗剤が残らないようにしてください。
- ・アセトン等の溶剤や磨き粉などは使用しないでください。床材を損傷させる原因となります。
- ・自動洗浄機等の機材を使用して清掃をされる場合は、やわらかいブラシおよび低圧にしてご使用ください。また、シリンダー回転型の装置をお使い頂くことをおすすめします。※推奨機材例：Karcher scriber BR 30/4 C
- ・デッキブラシでこする場合は、軽くこすってください。強くこすると傷が付く場合があります。
- ・清掃時は、必ず換気をおこなってください。汚れやホコリ 過度な湿気などの条件ではカビやダニが発生し、健康を害する恐れがあります。過度な湿気を含ませないために、お天気の良い日には窓を開け風通しを良くしてください。
- ・スポットクリーニングについては以下の方法をご参照ください。またブラッシングを行った後は、必ず水拭きをしてください。
- ・ゴムと直接接触させると変色の原因となる場合がありますので、避けてください。
- ・表面に織物特有の凹凸があるため、汚れが残りがやすくなる場合があります。

■スポットクリーニング

コーヒー、ジュース、チョコレート、クリームなど	温水を含ませた布巾で拭き取ってください。汚れが残る場合、中性の万能クリーナー (pH7-8.5) で汚れを落としてから洗剤が残らないよう再度、温水を含ませた布巾で拭いてください。
チューインガム	ガム除去剤またはコールドスプレーを塗布しブラッシングした後、布巾で拭き取ってください。
錆	弱酸性の洗浄剤 (pH3-4) を塗布後5~10分置いてください。その後、温水でブラッシングした後布巾で拭き取ってください。
水溶性接着剤	温水でブラッシングした後、布巾で拭き取ってください。
溶剤系接着剤	しみ抜き材 (ベンジン等) でブラッシングした後、布巾で拭き取ってください。
靴の跡	乾いた布巾で拭き取ってください。
血液	冷水中でブラッシングした後、布巾で拭き取ってください。汚れが残る場合、アンモニアでブラッシングした後布巾で拭き取ってください。